

ソメイヨシノの挿木増殖・保存法の検討

坂上大翼・栗田直明・岩本則長・千嶋 武 (東京大学演習林)

1. はじめに

☆ソメイヨシノ (*Prunus × yedoensis*)

- ・オオシマザクラとエドヒガンの自然交雑種
- ・主に接木増殖により生産, 挿木発根性は難とされる
- ・成長が早い短命(60~80年)
- ・各地で公園樹・記念樹として植栽

○緑化樹種として, 効率的な大量増殖法を開発する必要性

○記念樹・貴重木として, 関係者の感情に配慮しつつ後継樹を育成する必要性

☆栄養(無性)繁殖手法

- ・接木: 手間がかかる, 熟練を要する
- ・取木: 手間がかかる
- ・組織培養: 高価な設備, 専門的知識・技術を要する
- ・挿木: 簡便, 樹種間・母樹間差, 母樹齢効果



従来, 挿木増殖が困難とされてきたソメイヨシノの挿木方法の確立

2. 材料と方法



東京大学駒場キャンパス 北門ソメイヨシノ並木
(推定樹齢約70年)

○2004年の検討項目(5母樹)

挿付時期: 3月(春), 6月(夏), 12月(冬)

用土: 赤玉土, 鹿沼土+川砂(1:1), 鹿沼土+バーミキュライト(1:1), 鹿沼土+赤玉土(2:1)

育成環境: ガラス室, ミスト挿し, 密閉挿し, 温床挿し

○2005年の検討項目(24母樹)

挿付時期: 7月上旬, 7月下旬

密閉期間: 15, 30, 45日間

○挿穂

穂長10 cm, 基部1 cm切返し, 発根促進剤溶液15秒間浸漬

3. 結果

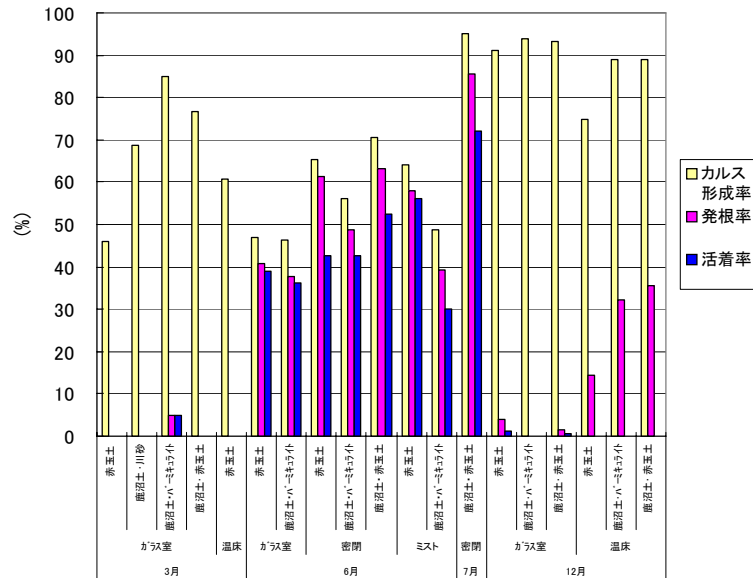


図. 各挿付時期, 育成環境, 用土におけるカルス形成, 発根, 活着率

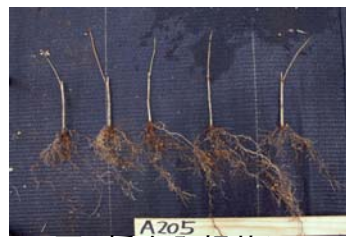


図. 挿木発根状況
(6月・密閉挿し・鹿沼土+赤玉土, 12月調査)

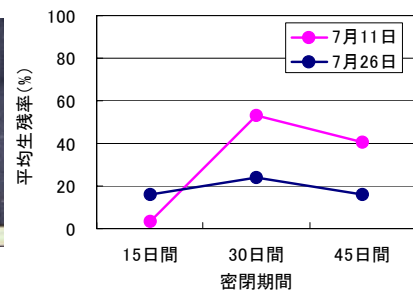


図. 挿付時期と密閉期間による平均生残率の違い

表. 発根率の母樹間差(6月挿付)

用土	母樹	6月 発根率(%)		
		ガラス室	密閉挿し	ミスト挿し
赤玉土	A205	10.0	63.3	83.3
	A235	43.3	80.0	36.7
	A245	43.3	60.0	50.0
	A250	86.2	70.0	96.7
	A254	23.3	33.3	23.3
	平均	40.9	61.3	58.0
鹿沼土	A205	3.3	30.0	40.0
	A235	36.7	36.7	26.7
	A245	40.0	70.0	40.0
	A250	70.0	63.3	56.7
	A254	37.9	43.3	33.3
	平均	37.6	48.7	39.3
鹿沼土+赤玉土	A205	—	63.3	—
	A235	—	63.3	—
	A245	—	53.3	—
	A250	—	89.7	—
	A254	—	46.7	—
	平均	—	63.1	—

4. まとめ

☆梅雨挿し(夏挿し)において好成績

☆特に密閉挿しが優れる

☆7月上旬頃の挿付, 30日間程度の密閉が効果的

☆用土の違いによる明瞭な差は認められない